

木々もすっかり緑に覆われ、子どもたちと一緒に成長を始めました。その腰を折るかのよう10連休です。毎年連休明けには入園したてのようなぶり返しが起きるのですが、今年はどうでしょう。まあ、切り離して考え連休をおおいに満喫してほしいですね。

先日昼食時、ふらっと年中さんのクラスに入ってみるとお弁当の支度の真っ最中。先生はお茶をとりに行って子どもたちだけなのに、皆せっせと準備をしていることを素晴らしいと思い褒めてあげました。褒められた瞬間の彼らの顔が嬉々としてぱっと変化し、なおせっせとお弁当を広げるストレートさがたまりません。

そんな中、一人の男の子が私の前にやってきて「これできない・・・」。お弁当袋のひもがきゅっとちょうちょ結びされていてとれないということです。「ここ引っ張ってごらん」とひもの先にある玉を教えてあげました。その瞬間私の脳裏に30年近く前の出来事がふと浮かんできたのです。ひかるくんという年長の男の子、保育者1年目の私に何でも「ねえこれやって！先生やって！」と頼んできます。ある程度のことにはやってあげていたのですが、自分でできるようになってほしい思いが強く、しまいには「自分でや・れ！」と言ってしまった時、その子はぶーっとふくれっ面になり行ってしまった場面が思い出されました。

今思うと、ふくれっ面に見えたその表情は、私に対する落胆だったのかもしれませんが。子どもたちは、先生（大人）を頼りにやってきます。やってあげるときも必要ですが、子どもたちに「その術（すべ）」を教えてあげるのが私たちの役目だと思います。

話しを戻すと、年少年中さんくらいに、キツイひもを「ほどく」ことは意外と盲点だったりするのかもしれませんが。他にも同じように戸惑う子や今までなんとなくうまくいっちゃってる子がいるのかもしれませんが。どんな小さなことでも「できる」という確信に変えてあげることで、それが自分への確固たる自信につながってほしいと願います。

というわけで、ちょうちょ結び・どこを引っ張ればほどけるかクイズ！など、子どもたちと興味関心を持ちながらあーでもないこーでもないとやってみたいものです。年長さんだったら「しばる」より「結ぶ」を教えてみたくなくちゃいけません。あ、年長といえばタマゴの件で少々タマゴマゴマゴしておりますが温かく見守っていただけると幸いです。

今月のねらい（育ててほしい姿や経験してほしいこと）はクラスだよりでお伝えします

今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）

3歳

- 人遊びを充分楽しむ
- 友達の名まえやマークに興味をもつ
- みんなでいるところで遊んだり、見たり聞いたりすることの楽しさを知る、
- 園生活の流れがわかり、身の回りの始末を自分でやろうとする

4歳

- 園生活のリズムになれて活動や遊びにすすんで参加しようとする
- 自分の意見が言える（うれしいことや悲しいことを自分なりの言葉で表す）
- 相手のことも聞こうとする

5歳

- 自分がしたいと思う遊びをくりかえし楽しむ
- 今日、明日何をするという短期の目的だけでなく、比較的長期の見通しが漠然とでもわかって行動できる
- 互いに言いたいことが言える（認め合い）